

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後	
計画の柱1 家庭・地域、保育所(園)・幼稚園、学校、図書館における子どもの読書活動の推進と環境づくり						
1 家庭 ・ 地域	(1)ブックスタート事業の取組	<p>(子育て支援課) 4か月児とその保護者を対象に絵本を手渡すことで、赤ちゃんの保護者が「温かくて楽しいひととき」を持っていただき、絵本に出会ったことを機会に心の成長に役立て楽しんでもらうこと。</p> <p>(文化課) ・絵本を介して赤ちゃんに語りかける子育ての支援 ・生涯にわたる読書のスタートを切るきっかけとなる</p>	<p>(子育て支援課) 会場ではわらべうたや親子ふれあい遊びの実演を行い、楽しい雰囲気の中でブックスタートの主旨や資料説明、初めて出会う絵本を紹介している。読み聞かせは、親子のコミュニケーションを図り、心の成長を育むことを伝え、読書の関心が継続して持てるように図書館の利用を促している。</p> <p>また、メディアと子どものよい関係づくりにおいて、グループワークなどを行い、読み聞かせの継続が、感性の育ちやコミュニケーション力等につながることを保護者に伝えている。</p> <p>(文化課) ・家庭での赤ちゃんへのよみかかせの効果についての説明と、よみかかせを行う ・図書館利用案内、おはなし会や文庫活動の案内</p>	<p>(子育て支援課) 赤ちゃんが初めて出会う本について、興味・関心を示される保護者が多くなり、詳しく情報を聞かれることが増えている。</p> <p>(文化課) ・ブックスタートで図書館のことを知り、来館する保護者が多く見られる。 ・赤ちゃんおはなし会への参加にも繋がっており、好評である。</p>	<p>(子育て支援課) ブックスタート事業に参加してもらえるように乳児家庭全戸訪問や保護者がサンコスモ来訪時に周知している。参加できていない保護者には再訪問して保護者のもとに絵本が届くように努めている。 しかし保護者の就労等により引換が難しいことがある。</p> <p>(文化課) ・家庭での読み聞かせを促す継続した取り組み</p>	<p>(子育て支援課) 引き続き乳幼児健診や母子手帳の交付、乳児家庭全戸訪問等で周知の機会をとらえ、ブックスタート事業への参加を促し読み聞かせの大切さを伝える。 乳児とその親子が楽しみながら絵本の読み聞かせができるよう、絵本リスト等の活用も行き、ブックスタート事業から赤ちゃんおはなし会参加や図書館利用につながるよう取り組む。就労などにより絵本の引換が難しい保護者にとって受け取りやすい場所、環境を整えていくことも今後大事にしていく。</p> <p>(文化課) ・赤ちゃんおはなし会等での家庭での赤ちゃんへの読み聞かせのすすめ ・赤ちゃん絵本の更なる充実</p>
	(2)セカンドブック事業の取組	<p>(文化課) 0歳児のブックスタート事業に続き、継続して家庭での読み聞かせが行われるよう、3歳児に絵本をひとり一冊配布する。</p>	<p>(文化課) 平成28年度から開始 ・3歳児健診を受ける子どもを対象に、3歳児健診会場もしくは古賀市立図書館で絵本を渡す。絵本は5冊の中から一冊好きなものを選んでもらう。 ・絵本とともにセカンドブックのしおりを渡し、図書館利用・おはなし会の案内や家庭での読書の意義について説明をする。</p>	<p>(文化課) ・29年度対象の幼児への配布率は90%以上</p> <p>(子育て支援課) サンコスモで行われている3歳児健康診断のご案内資料に「セカンドブック」引換券を入れ送付し、健診当日は対象者の名簿と場所を提供している。</p>	<p>(文化課) ・ほとんどの子どもが3歳児健診で受け取るため、高い配布率となっているが、配布時に一人ひとりに読み聞かせの意義や図書館の紹介などに十分な時間をとれていない。</p>	<p>(文化課) ・引き続き幼児期の読み聞かせや図書館利用をすすめる。 ・幼児に適した絵本、おすすめ絵本コーナーの充実</p>
	(3)つどいの広場事業の取組	<p>(子育て支援課) 子育て中の親子の居場所や子育てに関する相談・情報提供を行い、育児不安の軽減を図る</p>	<p>(子育て支援課) ・平成29年度は0歳児と1.2歳児に分かれて月1回「絵本タイム」を行い、絵本の読み聞かせやふれあい遊びを通してコミュニケーションや親子のふれあいを支援している。 ・図書館のおはなし会や地域文庫を紹介し啓発している。 ・絵本コーナーを設置し、親子が自主的に絵本に親しめる環境を整備している。</p>	<p>(子育て支援課) 「読書活動」の大切さを理解することで関心を持ち、家庭での絵本の読み聞かせにつながっている。また、図書館、地域でのおはなし会の紹介、周知を図ることにより参加者も増えている。</p>	<p>(子育て支援課) 月齢が違う集団での読み聞かせは難しい。</p>	<p>(子育て支援課) ・絵本を身近に感じ、保護者が子に日常的な読み聞かせや絵本の選択ができるように年齢や発達に応じたアドバイスや支援を行っていく。 ・絵本コーナーの環境を整え、親子で絵本を楽しむ空間になるよう充実させていく。 ・別室での年齢別のおはなし会の提供を考えていく。</p>

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1 家庭・地域	(4)地域文庫の取組	(文化課) 身近に読書に親しめる場や機会を提供し、家庭・地域に根ざした地域文庫活動の普及を行う。	(文化課) ・図書館から配本(年3回、上限300冊まで)や大型絵本、パネルシアターなどを借り、読み聞かせや貸出し等を行う。 ・地域や育成会などで共催のイベントなど。	(文化課) ・地域文庫の継続した活動により、家庭や地域の読書の充実が図られた。	(文化課) ・行事での子どもの参加は多いが、普通の日の参加が少ない。 ・本を借りる子どもが少ない。 ・スタッフの増員	(文化課) 事業の継続
	(5)学童保育所の取組	(文化課) 学童保育所での読書に親しむ環境づくりをすすめる。 (学校教育課) 子どもの読書への興味を育み、読書に親しむ環境づくり	(文化課) ・団体貸出(図書・大型絵本・パネルシアターなど)	(文化課) ・団体貸出により学童保育所での読書活動の充実が図られた。 平成28年度 1977冊 平成29年度 2205冊	スペースの問題で、落ち着いた場所で読書しにくい。	(文化課)(学校教育課) 事業の継続
	(6)「放課後子供教室(アンビシャス広場づくり)事業の取組	(青少年育成課) 地域全体で、子どもを育む「アンビシャス広場づくり事業」において、物づくりや、本の読み聞かせなど様々な活動が行えるよう、子どもが本に親しむ環境づくりを支援する。	(青少年育成課) 千鳥チャレンジ・アンビシャス広場、舞っ子アンビシャス広場での「ボランティア団体との協働」により物づくり、本の読み聞かせの活動を行った。	(青少年育成課) 「読み聞かせ」や「ボランティア団体との協働」を行うことで、子どもが本に親しむことができる環境の整備ができた。	(青少年育成課) 市内のアンビシャス広場への普及には至っていない。	(青少年育成課) 「ボランティア団体」との交流を深め、物づくりや本の読み聞かせなどの活動を支援し、子どもの読書活動につなげたい。
	(7)地域コミュニティ活動の取組	(文化課) 地域のコミュニティで行政区ごとの世代間交流や子育て支援を行う団体が読書活動を行う	(文化課) ・図書館は紙芝居や読み聞かせ等の読書活動ができるよう団体貸出などの支援を行っている。 ・読書ボランティア団体の協力で読み聞かせやわらべ歌を楽しんでいる団体もある	(文化課) ・まちづくり出前講座の図書館の「子どものお話会」のメニューを利用して読書の大切さについてのお話を聞いた公民館のグループがあった。	(文化課) 図書館で団体登録されていないグループの活動を把握することが難しい。	(文化課) 読書活動をすすめるボランティア団体と協力しながら公民館などのグループの読書活動が広がるよう支援していく。
	(8)児童館の取組	(青少年育成課) 児童館の図書室等を充実し、利用促進を図る。	(青少年育成課) ・市内3児童館内に図書室・図書コーナーを設置した。 ・乳幼児事業で乳幼児とその保護者に対し「本の読み聞かせ」を行なった。また講師を迎えて「読書活動」を行った。	(青少年育成課) ・乳幼児とその保護者に対し「本の読み聞かせ」を行うことで「本と親しむきっかけ」ができた。 ・図書室や図書コーナーを確保することで、子どもが本に触れる機会ができた。	(青少年育成課) 図書室・図書コーナーの本の充実、図書館からの本の借り入れの回数が減少した。	(青少年育成課) 児童館の図書室・図書コーナーの更なる充実と活用を図り読書環境を充実する。「読み聞かせ」や「おはなし会」などの活動について継続していく。
	(9)子ども体験活動事業の取組	(青少年育成課) 様々な体験活動の機会を提供する中で、地域やボランティアと連携して子どもを読書活動に導く。	(青少年育成課) 古賀市子どもわくわくフェスタにおける子どもの本の交流を「古賀子どもの本の交流会」と古賀市中学生読書サポーターによる読み聞かせを実施する。	(青少年育成課) 「読み聞かせ」の活動を通して、読書ボランティアと古賀市中学生読書サポーターとの連携を図り、参加する子どもを読書活動に導くことができる		(青少年育成課) 古賀市子どもわくわくフェスタにおける子どもの本の交流を継続的に実施し読書活動の啓発を行っていく。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1 家庭・地域	(10)家庭・地域教育支援事業の取組	(生涯学習推進課) 家庭の教育力を高め、「豊かな心と志を持つたくましい」子どもの育成を目指し、古賀市の実情に即した家庭教育支援事業を実施する。	(生涯学習推進課) ・家庭教育支援事業(家庭教育ひろば)第3回(平成29年12月14日)「あなたの知らない絵本の魅力」講師:山浦千春さん 絵本を通じて、コミュニティへの意識や食育などの家庭教育力を高める。(参加者11名) ・コスモス市民講座(託児で状況に応じて読み聞かせを実施)	(生涯学習推進課) 絵本を通じて、参加者同士で共感し、コミュニティに対する意識や食育などの家庭教育力を高める機会となった。	(生涯学習課) 参加者を増やすために、周知内容や期間、方法など工夫が必要。	(生涯学習課) 家庭教育支援事業では、協力グループの読書活動に対する関心が高いため、意見を聞きながら適宜講座を計画する。 また、コスモス講座等も含め託児会場では「家読(うちどく)」啓発の一環として適宜読み聞かせの読書活動を取り入れる。
幼2 稚園 保育園 保育所 (園)	(1)本の読み聞かせの継続 (2)図書スペースの確保と充実 (3)保護者へのはたらきかけ	(文化課) 保育所(園)・幼稚園で行われる読書活動をすすめるため、図書スペースの確保と充実を図る。	(文化課) ・団体貸出し(図書・大型絵本・パネルシアターなど)	(文化課) ・団体貸出しにより、保育所(園)・幼稚園での読書活動の充実が図られた。 ・団体貸出しの冊数が増えている。 平成28年度 1794冊 平成29年度 2227冊		(文化課) 事業の継続
3 学校	(1)学校図書館の運営	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校) 学校図書館運営の組織としては、学校図書館(司書教諭、図書司書)と学年部(各学年担任)、教科等指導との連携を図りながら、運営、管理を推進する。(千鳥小)			(学校教育課) 継続
	(2)読書指導・読書活動の充実	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校) ほとんどの学校で、朝の限られた時間を工夫しながら定期的に朝読書に取り組んでいる。 朝読書の時間に図書委員や7学年の教職員が読み聞かせを行っている(青柳小)		(学校) 不読者と教師の無関心を打破することが最重要課題。(古賀東中)	(学校教育課) 継続
	(3)読書関連行事の実施	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校) それぞれの学校で、図書委員会と協力しながら工夫をこらした読書関連行事を行っている。 ・子ども読書の日に関する取組 ・読書週間(年に数回)・読書集会・文集作成など また、ほとんどの学校で、定期的に読書ボランティア団体による読み聞かせを行っている。時間は朝読書の時間、授業時間、昼休みと様々。			(学校教育課) 継続

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後	
3 学校	(4)学校図書館間ネットワークの活用	(文化課) 学校図書館間ネットワークe-slipを活用することによって、市内全域の学校図書館の資料を効果的に利用し、学習、読書活動の支援が十分かつスムーズに行えること。 (学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(文化課) ・e-slipを利用して他校の蔵書検索を行い、相互貸借を依頼する。文化課は予算担当 ・司書教諭や学校司書が作成した単元目録や読書用のリストを基に学校に資料を提供する(団体貸出)	(文化課) ・図書館ではe-slipの利用がほとんどなかった。 ・団体貸出しでよく利用された。	(文化課) ・学校との連携をもっと深める。 ・定期的な物流システムの検討が必要	(文化課) ・司書研修会の参加や学校と密な情報交換ができるよう学校教育課指導係と協力していく	
	(5)広報活動の充実	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校) それぞれの学校で、学校図書館利用案内の作成やオリエンテーションの実施、図書館だよりなどの印刷物や学校図書館の掲示物、放送など様々な手段を使って広報活動に努めている。			(学校教育課) 継続	
	(6)図書館資料の充実	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校) 児童、職員の希望、教科との関連を考えながら良書の選定に努める。校内図書展示会を開催し、購入(花見小) 児童図書・優良図書展示会を利用し図書購入を行う(古賀東中) 校内図書購入見計らい(小野小)			(学校教育課) 継続	
	(7)学校図書館の環境整備	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校) 5年生国語単元でPOPを作成し、図書館に展示(古賀西小) 図書委員会でPOPの作成(千鳥小) 「読書の実(花)を实らせよう」9類図書の読書の推進。(青柳小)			(学校教育課) 継続	
	(8)読書感想文・読書感想画の取組	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校) 読書の感動を絵画で表現することを通じ、読書の楽しさや素晴らしさを体験してもらい、子どもたちの考える力を育むため実施。(小野小)			(学校教育課) 継続	

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学校	(9)親子読書会の推進	(文化課) ・家庭読書の推進と普及を図ること ・各小学校親子読書会活動の支援 ・親子読書活動の周知	(文化課) ・古賀市親子読書会事務局を務める ・校長会での趣旨説明 学校長の理解と協力を求める ・親子読書担当者会の実施(年2回) ・古賀市親子読書のつどいの実施 ・読書講演会の実施(平成29年度図書館まつりで親子読書会会員向けに実施)	(文化課) ・市内7校で独自の活動が継続していること (平成29年度から青柳小学校で会員が集まらず、平成30年度も休止) ・定例会を自主的に会員が行い、読書活動の内容が多岐にわたっており、読書の楽しさを共有していること ・子どもが読書習慣を養っていること ・合同で読書会を開催したり、つどいを実施していること	(文化課) ・家庭読書の推進 ・親子読書会活動の推進 ・各学校での活動の維持	(文化課) ・交流と読書意欲の向上を図れるつどいの実施 ・親子読書会のPR、市民への周知(広報こがに紹介記事の掲載) ・家庭読書の周知、呼びかけ
	(10)学校図書館の地域開放	(学校教育課) 学校図書館の「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能に、地域住民が集う場としての機能を加え、生涯学習に貢献するとともに地域力向上を図る	(学校教育課) 平成29年度から市立図書館の一般図書を定期的に貸し出してもらい、各学校図書館にコーナーを設置し市民に提供している。	(学校教育課) 地域の方が気軽に立ち寄るなど開放したことの成果がでている。	(学校教育課) 今後も利用しやすくなるよう改善しながら図書館開放の周知について継続していきたい。	(学校教育課) 継続
	(11)適応指導教室の取組	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(文化課) 学習活動の一環として直接図書館で選本している。	(文化課) 平成29年度 392冊 平成30年度 91冊		(学校教育課) 継続
	(12)高等学校の取組	(文化課) 子どもの豊かな読書に資するため、高等学校との連携を深める	(文化課) インターンシップ(就業体験)の受入れ	(文化課) インターンシップを通して、図書館の持つ機能と必要性、利用方法を伝えることができた。	(文化課) ・高校生を含めた10代の利用が少ない ・学校との連携	(文化課) ・事業の継続
	(13)特別支援学校の取組	(文化課) 子どもの豊かな読書に資するため、特別支援学校との連携を深める	(文化課) ・団体貸出し ・読書ノート配布おはなし会	(文化課) ・継続的な団体貸出し 平成29年度 352冊 平成30年度 161冊(小・中学部、高等部合算)	(文化課) ・学校との連携	(文化課) ・事業の継続

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後
4 図書館	(文化課) 読書関連行事を通して、読書意欲の向上に努める	(文化課) ・どようおはなし会(毎週土曜日 11:00~11:30) ・赤ちゃんおはなし会(月1回2部制) ・小さい子のおはなし会(月1回) ・小学生向けおはなし会(年6回実施) ・子ども映画会(月1回、平成30年度から年7回) ・おはなし会スペシャル ・図書館まつり めりえや読書クイズなど	(文化課) ・就学前の子どもが年齢に合わせた読書活動に継続して参加できた。 ・おはなし会では参加者数が増え、父親の参加も増えている。 ・子ども映画会は上映回数を減らし、学校への周知を行い参加者を増やしている。	(文化課) ・各行事の参加が低年齢の子どもが多く、小学生が少ない。	(文化課) ・事業の継続
(2)乳幼児と保護者への支援	(文化課) ・子どもの健やかな成長をうながす家庭での絵本の読み聞かせのすすめ ・家庭での読書の支援	(文化課) ・赤ちゃんおはなし会、小さい子のおはなし会の実施 ・乳幼児の発達段階に合わせた乳幼児向け絵本コーナーの設置 (赤ちゃん向け、0.1.2歳向け、幼児向けおすすめ絵本) ・全国訪問おはなし隊の活用(平成29年度) (子育て支援課) ・各事業(ブックスタート、7ヶ月っ子広場、1歳誕生広場、2歳元気広場)の中で絵本に関心を持っていただくよう、月齢に応じた絵本の読み聞かせを大事にしている	(文化課) ・おはなし会に乳幼児を連れての参加が増え、リピーターも多くみられる。 ・友人同士で来館する母親も多く、図書館が乳幼児や母親への読書活動だけでなく、憩いの場としてのひとつの選択肢となっていることがうかがえる。 (子育て支援課) 絵本に触れる中で、乳幼児とその保護者の表情が和らぎ、ゆっくりした空間、時間の中で楽しく読み聞かせに耳を傾けることができます。	(文化課) ・テレビや映画のキャラクターの絵本やDVDを目当てに利用する親子も多い。良質な読書につなげるはたらきかけが必要。	(文化課) ・引き続き乳幼児期の読書の効果を保護者に伝える活動を行う。 ・絵本の良さを伝える。 ・手遊びやわらべ歌なども取り入れながら、保護者が読み聞かせに対して気構えずに取り組むようすすめる。 (子育て支援課) 今後もさらに親子で楽しめるように内容の工夫を行っていく。
(3)読書ノート事業の取組	(文化課) 読書の楽しさを深めるひとつの機会として、図書館に親しんでもらいながら、読書活動の推進を目的としている	(文化課) 各小学校に、①おはなし会をおこない②どくしょノートの使い方等の説明後、③ことちゃんがどくしょノートを手渡す活動をおこなった。 希望する時期に特別支援学校への訪問及びどくしょノートの配布もすることができた。(平成30年3月)	(文化課) 各小学校からの反応もよく、また来てほしいとの意見が多かったので、毎年、行っていきたい。 ・小学生向けのどくしょノートを作成し、図書館内で配布を開始した。(平成30年7月)	(文化課) 実際の活用状況については、これから調べていきたい。 転入生にも手渡せるとよい。	(文化課) ・事業の継続 ・どくしょノートを配布後、図書館にどくしょノートを持ってきて、読書シールを希望する児童の姿が見られたので、各小学校まで行って、どくしょノートの説明を継続しておこないたい ・市民・児童等にも広げていきたい ・古賀市立図書館のホームページから印刷できるよう準備中

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後	
4 図書館	(4)「古賀市中学生読書サポーター」の取組	(文化課) 読書の楽しさ、大切さを周りに伝える読書サポーターの育成	(文化課) 平成28年度はPOP講座、平成29年度はブックトーク講座を開催した。 平成30年度はこが語りの会を講師として読み聞かせ講座を行った。 どの年度も夏季休業中に全3回の講座を行い、年度後半は学校や図書館などで読書の楽しさを周りに伝える活動を工夫して行ってもらった。	(文化課) 図書館での研修が、学校図書館での読書サポーターの意欲の向上や学校図書館での活動に役立った。	(文化課) 講座終了後の読書サポーターの活動の場の提供	(文化課) 平成30年度から福岡県子どもの読書活動推進事業となり、読書活動応援隊として読書ボランティア団体と協力しながら中学生読書サポーター事業を継続中
	(5)特製コーナーの設置	(文化課) ・子どもの発達段階や興味関心、テーマによる特設コーナーを設けることにより、図書の利用の促進を図る ・子ども(10代)の知的活動を推進し、多様な興味・関心に応える	(文化課) ・12～18歳対象のYAコーナーの拡充 ・読書感想文課題図書・読書感想画指定図書コーナーの設置 ・関連図書の充実と隣接した閲覧スペースで、利用を促進	(文化課) YAコーナーを拡充することにより、読書に関心のある中学生・高校生の読書意欲を喚起し、より本を選びやすい環境を整えることができた。	(文化課) 対象の利用が少ない	(文化課) 事業の継続
	(6)子どもへの学習活動支援の充実	(文化課) 子どもの読書活動を推進するため、学校への調べ学習資料の充実や、来館した子どもへのレファレンスサービスを行う	(文化課) ・学校への「総合的な学習の時間」などに対応できる調べ学習のための図書館資料の充実 ・自由研究図書コーナーをはじめとした子どもへのレファレンスサービスなどの充実	(文化課) どの学校も教科を同じ時期に学習するため同時期に同じ内容を調べる子どもが多く対応に苦慮する	(文化課) 事業の継続	
	(7)障がいのある子どもや来館困難な子どもへの支援	(福祉課) 古賀市障害者移動支援事業・屋内での移動に困難ある障がい者の支援を行うことで、地域における生活を支援し、自立や社会参加の促進を図ることを目的とする。 (文化課) 障がいのある子どもや来館困難な子どもが、読書を通して視野を広げ、知識を得ることができるよう支援する。	(福祉課) 障がい者が、古賀市と契約を結ぶヘルパー事業所を利用し、社会生活上不可欠な外出や余暇活動等の社会参加のための外出の移動支援を行った。 (文化課) 適応指導教室「あすなろ教室」や特別支援学校等の児童生徒が、読書を通して視野を広げ、知識を得ることができるよう支援する。	(福祉課) 具体的な件数は把握していないが、本事業を利用して、図書館を利用する障がい者の方がいらっしゃった。 (文化課) 定期的に、各団体の貸出しを行っている。 「あすなろ教室」の生徒は、来館し自ら借りる資料を選ぶなどの活動もしている。	(福祉課) 継続して事業を利用する方もいらっしゃるが、新規利用者への十分な事業周知ができていないこと。 (文化課) 個人で来館できない子どもへの支援	(福祉課) 引き続き、移動支援事業を行い、障がい者の外出を支援し、地域における生活及び社会参加を促す。 (文化課) 事業の継続 生徒同士のコミュニケーションのツールや情報収集の手段として団体貸出しなどを行い、支援していく。

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後
計画の柱2 図書館間及び子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携・協力に向けたネットワーク化					
1 図書館間の連携と協力	(文化課) 子どもの読書活動を推進するため、他館と図書資料の相互貸借や情報収集を行う	(文化課) ・他館との資料の相互貸借 ・福岡県図書館情報ネットワークシステムへの参加 ・福岡県公共図書館協議会等での情報収集	(文化課) 学校や読書ボランティアからの依頼に応えることで、子どもの学習活動の充実や読書推進につながっている		(文化課) 事業の継続
子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携と協力	(1)図書館等と学校	(文化課) 図書館の種別を超えてネットワークを作り、学校教育の支援と児童・生徒の読書の推進をはかる。	(文化課) ・校長会での趣旨説明、利用の呼びかけ ・小学生の図書館施設見学受入 ・小中学生読書リーダー養成 ・中学生読書サポーター養成 ・司書研修会への参加 ・団体貸出	(文化課) ・連携をしやすくする。	(文化課) ・市立図書館のアピール ・学校教育課指導係、司書教諭、学校司書と情報交換を増やす ・司書研修会への定期的な参加 ・連携について共通理解できるようにする。
	(2)図書館等と家庭・地域	(文化課) ・本をとおして親と子がふれあう ・家庭読書の推進と普及 ・地域の読書推進	(文化課) ・ブックスタート、セカンドブックの絵本の配布 ・出前講座 ・地域文庫、学童保育への団体貸出し ・地域文庫連絡会の実施 ・学校図書館の一般開放用図書を図書館から貸出し	(文化課) ・地域と家庭に、家庭読書の呼びかけをする	(文化課) ・ブックスタート、セカンドブック事業を継続し、家庭読書の推進をするとともに、地域文庫や学校図書館の一般開放事業等の周知に努める
	(3)図書館等と読書ボランティア団体	(文化課) ・子どもを対象とした読書ボランティア団体へ知識や技術の向上のための講座や研修会を開催し、活動の活性化に向けて支援する。 ・読書ボランティア団体に協力を求め、読書活動の活性化につながる取組を連携して行う。	(文化課) ・団体貸出(図書・大型絵本・パネルシアターなど) ・読書ボランティア養成講座の開催 ・図書館や他団体で開催される読書講座やイベントなどの情報提供 ・読書ボランティア団体交流会の開催 ・おはなし会(どよう・赤ちゃん・小さい子)のボランティア ・H29年度「大人のためのおはなし会」講師 ・H30年度「中学生読書サポーターの講師」「布の絵本づくり講座」での講師	(文化課) ・継続した支援により、読書ボランティア団体の活動の充実が図られた。 ・読書ボランティア団体交流会の開催により、図書館やボランティア間の交流が深められた。 ・読書ボランティア団体との連携により、読書活動の活性化が図られた。	(文化課) 事業の継続

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2 子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携と協力	(4)図書館等と保育所(園)・幼稚園	(文化課) 保育所(園)、幼稚園での子どもの読書活動を支援する	(文化課) ・団体貸出(図書・大型絵本・パネルシアターなど) ・図書館で開催する読書講座やイベントなどの案内送付 ・「こがめルーム」でのおはなし会の受け入れ	(文化課) ・団体貸出により、保育所(園)・幼稚園での読書活動の充実が図られた。 ・新設された保育所の団体登録が増えている。		(文化課) 支援事業の継続
	(5)学校と家庭・地域					
	(6)学校と読書ボランティア団体	(文化課) 学校での読書活動に読書ボランティアを活用し、子どもの読書の意欲を高める。	(文化課) ・朝の読書の時間や読書週間、フェスタなどでの読み聞かせなど	(文化課) 読書ボランティア団体の活用により、学校での読書活動の充実が図られた。		(文化課) 事業の継続
	(7)学校と保育所(園)・幼稚園					
	(8)家庭・地域と読書ボランティア団体	(文化課) 家庭や地域での読書活動に読書ボランティア団体を活用し、読書活動の充実や推進を図る。	(文化課) ・地域文庫活動 ・読書ボランティア団体によるおはなし会など	(文化課) 地域文庫や読書ボランティア団体の活動により、家庭や地域での読書活動の充実や推進が図られた。		(文化課) 事業の継続
	(9)家庭・地域と保育所(園)・幼稚園					
	(10)保育所(園)・幼稚園と読書ボランティア団体					

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後	
計画の柱3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及						
総合的な子どもの読書活動の推進	(1) 広報活動の促進	(文化課) 子どもの読書活動の総合的な推進のため、子ども及び子どもを取り巻く大人たちが、読書の重要性を改めて認識できるよう啓発活動を行う	(文化課) ・「図書館ホームページ」の随時更新 ・「広報こが」「行事予定表」「市ホームページ」「教育委員会フェイスブック」「こがっち」や地域情報誌へのポスター、案内文書の掲載	(文化課) 事業を適宜広報することにより市民の関心を高め、参加者を集めることができた	(文化課) ・訴求力の向上 ・各メディアの効果的な使用法	(文化課) ・「図書館ホームページ」の随時更新 ・「広報こが」「行事予定表」「市ホームページ」「教育委員会フェイスブック」「こがっち」や地域情報誌へのポスター、案内文書の掲載
	(2) 「子ども読書の日」の啓発広報活動	(文化課) 子ども読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める。	(文化課) 4月23日の子ども読書の日を中心に、おはなし会や読書講座等多様な講座を企画している。 (学校) ほとんどの学校で図書委員会が主旨の説明や家読など工夫して子ども読書の日を取組を行っている。	(文化課) 毎年多くの参加があり、親子で子どもの読書について理解を深めたり、関心を持つ良い機会となっている。	(文化課) 幼児の参加が多く、小学生が少ない。	(文化課) ・イベントの内容の精選 ・読書ボランティア団体の協力
	(3) 「家庭読書の日」の設定	(文化課) 「家庭読書の日」の周知と普及 (学校教育課) 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及	(学校) 家庭読書の日(毎月23日)(花見小) 子どもの読書週間にあわせ家読(うちどく)を実施している。(小野小) 子どもの読書週間や夏休みに家読(うちどく)を実施している。(古賀西小)		(文化課) 「家庭読書の日」の調査が進まなかった。	(学校教育課) 継続 (文化課) ・家庭読書の日の設定について、調査・研究を行い、周知と普及に努める
	(4) 子どもによる自主的な読書活動の取組	(文化課) 子ども同士で自主的に情報交換の場や活動の場を設け、読書活動に取り組めるよう支援する (学校教育課) 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及	(文化課) 古賀市中学生読書サポーター事業を行い、学校における読書習慣の定着と読書環境の充実を担う児童・生徒を養成した。 (学校教育課) 「古賀市小・中学生リーディングリーダー・プロジェクト」については27年度で終了	(文化課) 平成29年度はブックトーク講座を行い、子ども読書会にて発表を行った生徒もいた。本のお楽しみ福袋のおすすめの本の選定もお願いした。平成30年度は読み聞かせ講座を行い、夏休み小学生向けおはなし会を実施することができた。	(文化課) 学校や地域でのさらなる活動の場の提供をうながす	(文化課) 学校や地域、図書館で周りの子どもに自主的に読書の楽しみや大切さを伝える取組を工夫して行えるよう支援していく
	(5) 学校職員等の取組	(文化課) ・学校の読書活動の取組 ・調べ学習の積極的、計画的な導入 (学校教育課) 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及	(文化課) ・授業に必要な資料の提出(学校司書をととして要請) ・読書ノートの配布(時間の確保や児童の移動などに協力) ・教室での読み聞かせや本の紹介 ・読書ボランティアの活用	(文化課) ・図書館の資料を学習に活用	(文化課) ・学校職員等の役に立つ図書館利用サービスの紹介	(文化課) ・司書教諭及び学校司書と協力して、図書館教育に取り組む (学校教育課) 継続

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1 総合的な子どもの読書活動の推進	(6)読書推進活動の奨励	(学校教育課) 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及 (文化課) 読書ボランティア団体のこれまでの優れた活動に対し、表彰などに推薦し、長年の活動をたたえとともに、今後の活動の意欲を高める。	(学校教育課) 古賀東小学校が「平成30年度子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けた。 古賀東小学校は、年間読書冊数目標をひとり100冊として、貯読通帳や読書感想文集の作成などさまざまな活動を行うとともに、読書ボランティアや保護者と連携し、計画的におはなし会や親子読書会を開催している。 (文化課) ・古賀市社会貢献者表彰への推薦 ・野間読書推進賞への推薦 ・ソロプチミスト日本財団社会ボランティア賞への推薦	(文化課) ・古賀市社会貢献表彰受賞(青柳小おはなしの木) ・ソロプチミスト日本財団社会ボランティア賞受賞(星の子文庫) ・野間読書推進賞(たけのこ文庫)		(文化課) 事業の継続 (学校教育課) 継続
	(7)推薦図書を紹介	(文化課) 子どもの発達段階に応じた図書の紹介 (学校教育課) 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及	(文化課) ・「赤ちゃん絵本リスト平成20年」第3版、平成23年に第4版、平成26年度第5版 ・ヤングアダルトコーナーの設置 ・夏休み自由研究の資料、課題図書・指定図書の紹介	(文化課) ・ブックスタート事業による効果があり、赤ちゃん絵本の需要が増えた ・ヤングアダルトコーナーの拡充、図書資料の充実 ・夏休み自由研究の資料、課題図書・指定図書の紹介により利用者が増えた		(文化課) ・「赤ちゃん絵本リスト」第6版の作成 ・ヤングアダルト資料、自由研究資料の見直し ・市内小・中学校の夏休みの課題を把握して資料の充実を図る (学校教育課) 継続
	(8)子ども読書活動推進体制の整備	(文化課) 行政機関や学校、図書館、団体などが行う子どもを対象とした読書活動を充実させる	(文化課) 平成29年10月に「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」を策定し、相互に連携・協力しながら推進体制を整備	(文化課) 改訂版からの5年間の活動の成果と課題を盛り込み第3次計画を策定することができた	(文化課) ・進捗状況の把握 ・課を超えて連携し読書活動を推進していく	(文化課) 毎年進捗状況の把握のため各課に呼び掛け子ども読書活動調査を行い、古賀市図書館協議会にて進捗状況の把握を行う 計画策定2年目には各団体・学校などにも調査を行う予定